

国際文化交流特論： 越境する宗教とその可能性

第4回：

レクサスとオリーブ：
個人を取り巻く状況

名古屋大学国際言語文化研究科
鈴木繁夫（教授）



New IS
350/300h/250



- 切り倒されるオリーブ
(ウェストバンク, 2013年)

対立軸

レクサス	オリーブ
遠近感不要	地域の個別性
交換可能	かけがえのなさ
コスモポリタン	帰属意識
経済的自尊心	社会的自尊心

黄金の拘束服

民営

国有産業

公益事業

規制緩和

関税

個人投資奨励

競争促進

スタートラインの平等

貧富の階層化

レクサス・グローバリズム： 利点と欠点

利点	欠点
国家間戦争の減少	所得格差の拡大
汚職の減少	私的情実への嫌悪
情報の自由流通	一律化
民主化の進展	欲望の肥大

黄金の拘束服により失われるもの

(1)「協力」に基づく人間的な触れ合い

(2)損得勘定では割り切れない安心や安全



- 自分への問い

「いま私が、この集団に属していることは効率的なことなのか？」

- 集団からの問い

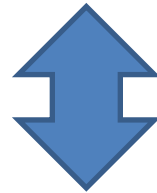
「お前は評価されるに値する人間か？」

二種類の問い

- 根源的な問い

- どこから来て、何者で、どこへ行くのか

- 超越的な視点をもつ人間 homo religiosus



- レクサスの問い

- 効率的で、評価に値するか

- 自立した強い個人像 homo mentis



第三の道：レクサスから逃れる

- 数字信仰からQOL社会へ
 - 経済成長数から＜中身＞quality of lifeへ
 - 医学の侵襲性からホスピスへ
- 多様性の肯定
 - ひとりひとりが自分自身の「生きる意味」の創造者
 - 一点豪華主義の人間

根源的問い: 内的成長へ

- <生きる意味>を成長させる
 - 人がわくわくすることを喜び、人が苦悩することを受けとめる
- (1)わくわくすること
 - × 他者の喜びを奪うことで自分も安心するという戦略
- (2)苦悩
 - 自分で自分の人生を切りひらいていく意識
 - × 「苦しいこと」は手軽に除去